

# 小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- 1 一括質問一括答弁方式
- 2 一問一答方式

質問件名 データに基づき、コロナ禍の子どもたちを日常生活に

## 質問要旨

国内の新型コロナウイルスワクチン接種がもたらす状況や、各国のワクチン接種の効果などもデータが出そろってきた。厚生労働省が8月18日に国会へ提出した、新型コロナウイルス感染症による7月の期間致死率は0.14%であり、インフルエンザ並みとなっている。8月27日には、デンマークがすべてのコロナ規制撤廃を表明し、コロナパスも9月10日までで終了すると報道されている。それ以外にも、スウェーデン、フィンランド、イギリス、米国の各州、ロシア、中国等、他国の例もある。さまざまなデータが、日本国内や市内における、対応の過剰さを物語っている。世界的な状況は変わっているものの、市の新型コロナウイルス感染症対策に対する対応は、以前より大きく変わることがない。

特に子どもたちにとっての一日一日はとても貴重である。私たち大人は、リスクを過剰に恐れて、過剰な対応をすることで、子どもたちからさまざまな経験の場を奪い取ってはならない。

市は、感情や報道によるのではなく、冷静にデータを洗い直し、各国の対応状況も参考にしながら、対応を緩めていくべきであると考え、以下質問する。

1. 市は、世界各国で、マスクもせず、行動制限も特にないような事例について、どう捉えているか。
2. 例えば国立成育医療研究センターのグループが定期的に行っているアンケート調査には、コロナ禍での子ども達や保護者達の心理的ストレスが表れている。市は、子どもたちの心身健康状態をどう把握しているか。
3. 市内の、不登校、いじめ、問題行動、家庭内暴力、熱中症の件数や、成績等、児童・生徒の、心身の健康状態が反映される各種指標に、異常な兆候は表れていないか。
4. 本年6月25日に開催された、児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議などで指摘されているように、児童・生徒(高校生を含む)の自殺者数が、コロナ禍において増えている状況について、市はどう考えるか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和3年8月30日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 安竹 洋平

受付番号【     】
